

## 「ひゃくじゅうのおじさん」からのメッセージ

校長 八木澤 龍馬

はじめに、6月号で述べました「いじめ撲滅」に向けての活動について、お話しします。

まず、1年生から6年生まで、それぞれの学年の発達段階を踏まえて、全てのクラスで話し合いを行いました。話し合いの内容は「〇〇な大谷口小学校、〇〇にことばをあてはめよう」です。「〇〇」には、みんなが目指したいすてきな大谷口小学校をイメージして、好きな言葉を当てはめます。各クラスからは次のような「〇〇」がでてきました。

「勇気をもって、友だちを助けられる学校」、「いつも笑顔で優しい学校」、  
「夢と希望があふれる学校」

そして、これらを児童代表者が集まる「いじめゼロ委員会」に持ち寄って、大谷口小学校のスローガンを決めました。

大谷口小学校のスローガン

「助け合い やさしさあふれる 大谷口小学校」～いつでも 希望と笑顔 忘れずに～

今後は、このスローガンをもとにして、児童の各代表委員会で、それぞれにふさわしい具体的な行動を起こしていくよう計画しています。いじめゼロに向けての活動は、さらに続いていきます。

さて、7月になり、1学期の授業日数も残すところあと13日となりました。もうすぐ夏休み、子どもたちが家庭、地域にもどります。そこで、地域児童の見守り活動をなさっている方からの投稿が、読売新聞6月10日朝刊に載っていましたので紹介します。

この方は、千葉県での小学生が巻き込まれた事件後、「こども110番パトロール隊」のステッカーをより目立つように首から下げ、自転車にも取り付けたそうです。

(以下、原文のまま)「先日、ある子どもから、『おじさんは何?』と尋ねられたので、ステッカーを見せると、『ひゃくじゅうのおじさん?』といて、素直に私の説明を聞いてくれた。帰宅して妻に話すと、『ひゃくじゅうは、百獣じゃないね。子どもたちはこんな言葉は知らないね』と言い、二人で笑った。子どもたちの事故が起きないよう、これからはしっかり見守り、パトロールを続けていきたい。」

先月号では、言葉によって人が傷つくことがある、という内容のことを書きましたが、子どもは無邪気に大人に声をかけることが多いようです。こうした子どもの純粋な問いかけを暖かく受けとめ、ていねいに返してやることで、子どもの心は育つのでしょうか。また、大人も、子どもと積極的に関わることで、子どもの気持ちが分かるようになるのでしょうか。この方のように、子どもの安全だけでなく、心の成長まで見守ってくださっている方が、大勢いらっしゃるのだと、嬉しく思ったメッセージでした。

この「こども110番パトロール隊」の方のように、わが大谷口小学区でも、防犯ボランティアの皆様をはじめとして、たくさんの方々が子どもたちを暖かく見守って下さっています。地域の皆様、この夏も子どもたちが安全に過ごせるよう、見守りや言葉掛けを、よろしくお願いします。